



蹴鞠とは、シカ革でできた鞠を地面に落とすことなく、蹴り続ける伝統的な球戯です。その歴史は古く、古代以来、主として公家社会で伝えられ、武士や庶民などにも広がりました。

蹴鞠は勝敗を争うものではなく、いかに蹴りやすい鞠を相手に渡すかという精神のもと行われるものです。

御常御殿東側廊下には、岡本亮彦^{すけひこ}の画いた「蹴鞠」の杉戸絵があります。岡本亮彦^{ごしゆん}は呉春を祖とする四条派の1人で、他にはこの杉戸絵の裏面「曲水」や御学問所菊の間の障壁画「菊」を画いています。

蹴鞠の催し

平成25年京都御所 春の一般公開 4月7日(日)10時・11時で蹴鞠を春興殿前広場にて催します。(雨天時新御車寄)

